

柔らかな毛に覆われた可憐なハチで、4月から5月にかけてタンポポの花に集まります。ミツバチの仲間などはほぼ一年中タンポポの花に見られますが、本種は春先の限られた時期にしか見られません。県内ではある程度自然環境の良い里山に見られ、果樹園の林床や雑木林の縁に咲いたタンポポを好むようです。成虫は地面に巣穴を掘り、そこに花粉を蓄えて幼虫の餌にします。ミツバチやマルハナバチの仲間とは異なり、単独で巣を造ります。本種の和名にあるトゲアシは、後脚の腿節（たいせつ）（たいもも）の背面にある棘の列にちなみですが、毛や花粉に覆われて目立たないため、顕微鏡で観察をしないと良く見えません。本種はタンポポにとまると脚で花を撫でるように動き、上手に花粉を集めますが、この棘も花粉集めの役に立っていると考えられています。



▲タンポポの花にとまるトゲアシヒメハナバチ

神奈川県立生命の星・地球博物館学芸員 渡辺恭平

【おおい自然園 HP】



▲大井町の動物園や植物観察会、石、自然観察会などの結果を掲載しています。

自然NOWへの投稿】



▲町内の身近な自然情報をお待ちしています。  
※撮影は横位置で